



基調講演 「日本の東アジア戦略の再構築」

岩手県立大学学長
北東アジア研究交流ネットワーク (NEASE-Net) 代表幹事
谷口誠

(東アジアをとりまく最近の状況)

1990年代、パリのOECD(経済協力開発機構)で7年半(事務次長を)務めながら、日本の将来に不安を感じていた。グローバリゼーションの中でヨーロッパではEU(欧州連合)に見られるごとく地域統合が進み、GATT/WTO体制の中で多角的な自由貿易を進めてきたアメリカも、EUの拡大に対して神経質になってカナダ、メキシコと組んでNAFTA(北米自由貿易協定)を成立させた。しかし、アジアにはASEAN(東南アジア諸国連合)を除き、地域統合への動きは何もなかった。特に北東アジアの日本、中国、韓国の間には地域協力の兆しすら見えなかった。日本がアジアの中で地域統合を進めていかななくてはならない時代が必ず来る、と思っていた。

日本に帰ってきて、2000年3月の早稲田大学(アジア太平洋研究センター)の退職記念講義で、「東北アジア経済圏」をつくらうと述べた。そのときの評判は芳しくなく、夢の夢だと批判され、あまり共感を得られなかった。その後、日本もシンガポールとのFTA(自由貿易協定)/EPA(経済連携協定)を結び、流れが変わってきた。しかし、日本が本当にアジアに軸足を置いて地域統合を進められる国かどうか、ということを感じ始めた。

たとえば、1997年7月に起こったアジア通貨危機を契機として、ASEANがイニシアティブをとった通貨問題でのASEAN+3(日・中・韓)の体制の下で、日本はアジアに軸足を置いて地域統合に進むかと思われる時期があった。最初はASEANがイニシアティブを取ったが、次には中国がイニシアティブを取った。通貨問題での地域統合を超え、貿易まで伸ばすというイニシアティブを取った中国には、先見の明があった。中国が2010年を目指してASEANとFTA/EPAを結んでいこうとした時、日本の反応は「中国のリップサービスだから放っておけ」だった。しかし、中国がASEANとの間で真剣にFTA/EPAを進めはじめると、日本は放っておけなくなった。そして中国より2年遅れで、日本も同じようにASEANと2012年に向かってFTA/EPAを結ぶことになった。日本は動きにくい国だ。韓国もASEANとのFTA/EPAを2009年、あるいはその前に進めるかもしれない。

いま進んでいる東アジア共同体構想は、ASEAN+3を中核に、日本の提唱するASEAN+6(日・中・韓にオーストラリア・ニュージーランド・インドを加える)あるいはASEAN+1(お互いに単独で進める)という交渉の過程にある。ASEANが中心となり、日・中・韓がそれぞれASEANとFTA/EPAを結ぶという3つの柱、あるいは6つの柱が進んでいく極めて複雑な現状だ。しかし日・中・韓は、経済規模から言えば、ASEANのGNI(国民総所得)の9倍に上る。その日・中・韓の間になぜ何もないのか。日・中・韓がともに考えていくべき問題だ。

2005年12月、マレーシアで第1回東アジアサミットが行われ、ASEAN+6が参加した。ASEAN+3で進んできた路線を日本が変えてメンバーを拡大したためだった。日本は何故メンバーを拡大したのか。

日本がアジアで置かれている立場は、外交的に極めて難しい状態にある。日本にとっていちばん重要なのは日米関係であり、日米防衛を基準にした日米同盟があり、こうしたアメリカとの関係を妨げるような東アジア共同体には加われない。それと同時に、アジアにおいて中国のイニシアティブの下で東アジア共同体構想が進められることは阻止せねばならない。そのためにASEAN+3にオーストラリア、ニュージーランド、さらに大国であるインドを加えてアジアにおける中国の政治的、経済的インパクトを抑えたいというのが日本の本音である。これは日本にとり世代を超えて大きな課題となろう。

(日本の東アジア外交)

日本が第2次大戦後、アジア外交を本格的に考え出したのは、おそらくアジア通貨危機以降ではないだろうか。さかのぼって1977年、福田総理がASEANを一巡し、マニラで演説した「心と心の交流」が、日本のアジア外交の本格的な指針を打ち出した第1弾だったと思う。当時私はフィリピンの日本大使館にいたが、この福田演説は福田ドクトリンともいわれた。ドクトリンという言葉は大国の打ち出す政策という意味があり、アジアの国にとっては決して良い響きでなく、日本はいつの間にか大国になったのか、というフィリピンのロムコ外務大臣(当時)の皮肉なコメントがでた。

これは日本のアジア外交の難しさを物語るものである

第2弾は2002年1月、小泉総理（当時）のシンガポールでの「アジアと共に歩もう（advances together）」で、素晴らしく日本のアジア政策を打ち出したと思う。しかしその中身はそれほど詰まっていたわけではなく、「an East Asian community」すなわち小文字のコミュニティであって東アジア共同体ではなく、まったく協議の場としてのコミュニティ程度のことしか考えていなかった。2003年12月、日本ASEAN特別首脳会議が日本で開かれたとき、日本とASEANが中核となって東アジアコミュニティをつくらうと宣言した。もしその時、中国と韓国をオブザーバーとしてでも呼んでいれば、その後の東アジア共同体構想の交渉で、日・中・韓がもっと手を結べたのではないだろうか。

日本の外交はもっと自信と雅量を持ってほしい。東アジア共同体交渉の中で気になるのは、いつも日本は欧米的な共通の価値観（common value）を唱えて、アジア的なものを相容れないところがある。ヨーロッパから見て奇異に感じるのは、アジアの日本が日米間には共通の価値観があるが、日中間にないということだ。共通の価値観には、極めて漠然とした政治的なイデオロギーが含まれる。OECDでいう共通の価値観とは、第1にpluralistic democracy（複数民主制）、第2に市場経済、第3にrespect for human rights（人権尊重）を指している。しかし世界各地の文化、宗教、経済、政治体制を超え、果たしてcommon valueを一挙におしつけていいかどうか。アジアは多様性に満ちている。日本がアジアの中で唯一メンバーだったOECDも変わってきている。私のいたときにメキシコが入って25、韓国が入って26、いまは30カ国に増え、価値観も変わってきている。

日本はASEAN+3にオーストラリア、ニュージーランド、インドを加えることにより共通の価値観を浸透させ、中国のインパクトをできるだけ抑えこもうとしているが、そういうことから東アジア共同体を進めようとする、なかなかうまく行かないだろう。事実、2007年1月15日、セブで開かれた第2回東アジアサミットでは、日・中・韓の関係だけでなく、これまで何とか結束を保ってきたASEAN自体の分裂をもたらし、東アジア共同体の行方は分からなくなってきた。その責任は日中共に負うべきだが、日本の責任は最も大きいと考えられる。

今後日本は対米関係、対中関係、アジア関係の中でどう生きていくのか。難しい外交上の選択を迫られている。2006年11月、ベトナムで行われたAPEC首脳会議に参加したブッシュ米大統領はASEAN+6以上の拡大を考えていて、日本案には不満を表した。ロシアも2005年12月、マレー

シアの第1回東アジアサミットにプーチン大統領が参加し、演説した。第2回東アジアサミットにはロシアのオブザーバーが出席した。インドが参加しているが、パキスタンも当然関心をもつだろう。日本がcommunityといったのは、共同体は作りたくない、アジアにはEUのようなスーパーナショナルな共同体ができるはずがない、ということが基本にあったのだろう。しかしいつのまにか共同体という言葉が走り出し、混乱をきたしているのが現状だと思う。

（東アジア経済共同体と北東アジアの役割）

東アジア共同体の今後は、極めて不透明だ。ASEANに対して日・中・韓でビューティ・コンテストをやっている。これでは、経済規模からいって、本当に実効性のある経済共同体ができるか疑問だ。東アジア共同体をめぐるメンバーを何カ国にするか、これはまさに政治的な空回りの議論だが、日本はそれを重要視している。メンバーが決まらなければ進めない、ということではなかなか進まないだろう。

実質的に何から始めるか。私は、政治的空回りの交渉はやめて、まず経済共同体へ向けてできることから始めるべきだと考える。そのためにも、日・中・韓にFTAもEPAも結ばれていないという現実には極めて異常だと思う。この責任は3カ国がお互いに持つべきだが、やはり日本の責任が極めて大きい。アメリカが韓国とFTAを結べば、日本はあわてて韓国とFTAを締結するだろう。いま韓国が中国とFTAを結べば、日本はあわてて中国と結ぶだろう。これでは駄目、なぜ日本は先を見ないのだろうか。アメリカとうまくやる、メンバーを拡大する、というも戦略だが、これから先、歴史認識とか政治問題に戻るとまた進まなくなる。

現在、1週間で、日本の17空港から中国の20空港に定期航空便が往復731便も通っている。日中貿易も1998年の約600億ドルから3倍に増えている。日本から2万社ぐらいの企業が中国に進出し、中国も大きな雇用を日本の企業から受けている。そういう状態でFTAもEPAも結ばれないのは異常な状態だ。

（日本の役割）

東アジア共同体の構築に向けて、ASEANにはASEANの政治的役割がある。1967年にバンコクで成立したASEANの小国の指導者の知恵には、素晴らしいものがある。しかしASEANの役割を尊重しながらも、日・中・韓が政治的にも経済的にも協力体制を確立しなければ、実効的な東アジア共同体は成立しない。では、日本は何からイニシアティブをとるのか、日本の果たすべき役割について

考えてみよう。

日本がASEANとの関係で、経済産業省のアイデアによりエネルギー問題でイニシアティブをとったことは素晴らしい。セブの第2回東アジアサミットでこれを打ち出した。ただ問題は、日本の打ち出している「東アジアFTA構想」はつまりASEAN+6のFTAであり、さらに二階前経済産業大臣が出した「東アジア版OECD」もある。これは何だろうか。OECDにいた私には驚きだった。ASEAN事務局の下に「東アジア経済研究センター」を作り、ASEANの事務局を強化する。これに日本は10年間で100億円を出す。ASEANに対する省エネトレーニング、技術協力、専門家の養成など、素晴らしいプロジェクトをコミットする。

しかし日本に身近な北東アジア経済圏に対し、日本は何をやってくれるだろう。何も無い。ASEANにばかり目が向いている。

共同体をめぐる日中の一種の覇権争い、あるいは勢力争いで、互いにグッドライバルであればいいが、いがみ合っているような状態では、ASEANはどちらの方向に行っているかわからない。本来、東アジア共同体をつくるためには、ASEANがドライバーシートに座って運転し、バックシートに日・中・韓がおとなしく座っていればいいのだが、バックシートでいがみ合いをしたらASEANは右往左往してしまう。ASEANにとって日中は本当に信頼できるパートナーなのだろうか、信頼できるパートナーはアメリカではないか、ASEANの中でもそう考える国もある。このような現状を北東アジア、特に日中は認識すべきである。

ERINAなどが長く努力してきた実質的なところに、なぜ日本は目をつけないのか。東アジア論者であった私もNEASE-NETの代表幹事をやり、日本は北東アジアにもっと基盤を置くべきだと考えている。私がいる岩手県、そして東北地方が一体として、北東アジアとどう協力していくべきか。たとえば宮城県と岩手県は、共同で大連に事務所を置いている。岩手県立大学も大連交通大学などから学生を招待している。韓国ともやる。地道に考えるならば、東アジア共同体という大きな構想以前に考えるべきことは何か、だんだん分かってきたように思う。2006年9月16~17日、岩手県立大学でNEASE-NET第1回総会があった。東北地方はアジアの中でも東アジア、特に北東アジアで、たとえば自動車部品の共同プロジェクトを1県でなく共同して進めていく、こういう考え方が出されている。徐々にこういう考え方が根付いていく。北東アジア経済圏に向け、積極的に、自信をもって進めていただきたい。

(北東アジア環境協力機構)

中国は環境問題で世界最悪の国になるだろうと言われていた。OECDのIEA(国際エネルギー機関)も、将来アジアがもっとも大きいエネルギーの消費地域になってくると言っている。経済産業省はエネルギーに着目し、安倍総理の下でアジア・ゲートウェイ構想を出している。「美しい国」と環境問題、省エネなど、日本が本当にやるべきことは何か。東アジアのメンバーシップをどうするという政治的なことより、実質的に日・中・韓、モンゴル、シベリア、将来は北朝鮮を含め、エネルギーをどうするか、環境問題をどうするかということが重要だと思う。

アメリカがいまCO₂の最大の排出国だが、中国は第2位になっている。IEAの見通しによると、2030年には北米3カ国(アメリカ・メキシコ・カナダ)のCO₂排出量が約81億トンに対し、中国は一国で71.7億トンとなる。EUはおよそ41億トンで、中国一国でEU25カ国を凌駕することになる。SO₂では中国はアメリカを抜いて世界最大の排出国になっている。成長の限界は環境から来る。そこで日本がやるべきことは、省エネ技術協力であろう。北東アジア環境協力機構をつくり、中国に対する技術協力でCO₂、SO₂を抑え、将来は中国もCO₂、SO₂を抑える義務を負ってほしいと考えている。こうした技術協力によって、日中韓の信頼感がもっと強くなっていく。信頼関係のないところにはいい共同体はできない。

政治の空回り議論はやめ、経済から入ろう。出来るものから徐々にやっていくべきだ。たとえば通貨問題がある。ASEANは通貨問題から地域協力を求めてきた。それが貿易に、さらにエネルギー、環境などへ拡大すれば、徐々に共同体的なものが出てくるだろう。

(より開かれたアジア共同体へ)

アジアはアジアの独特の共同体でよい。EUのように合理的なものでなくてもよい。アジアの国はNAFTAに入れない。アメリカもEUには入れない。アメリカに言いたいのは、アジアが自分たちでやっていることを、アメリカらしく鷹揚(おうよう)に見てほしい。

将来は開かれた共同体が望まれる。EUは6カ国から10、15、25になり、いま27カ国になった。ASEANは5カ国から始まり、6になり10カ国になった。NAFTAも3カ国から始まり、おそらくラテンアメリカに拡大していくだろう。アジアもASEAN+3を基盤としながら徐々に開かれたものに発展していく共同体を目指すべきだ。それがグローバルイニシアティブの中で開かれた地域主義というものである。

*Keynote Speech***The Restructuring of Japan's East Asian Strategy**

Makoto Taniguchi

President, Iwate Prefectural University

Chairman, Northeast Asian Studies and Exchange Network (NEASE-Net)

The Recent Situation around East Asia

In the 1990s, during my seven-and-a-half year stint as Deputy Secretary-General at the OECD (the Organisation for Economic Co-operation and Development) in Paris, I felt uneasy about Japan's future. Amid the process of globalization, in Europe regional integration advanced as could be seen in the EU (the European Union), and the US in turn, which had been promoting multilateral free trade within the GATT-WTO framework, got the jitters about EU expansion, and formed NAFTA (the North American Free Trade Agreement) with Canada and Mexico. In Asia, however, with the exception of ASEAN (the Association of Southeast Asian Nations), there has been no movement at all towards regional integration. Particularly between the Northeast Asian nations of Japan, China and the ROK, there has not been even a hint of regional cooperation. I thought the time was definitely coming when Japan would have no choice but to pursue regional integration within Asia.

After having returned to Japan, in my commemorative address upon my retirement from Waseda University (Institute of Asia-Pacific Studies) in March 2000, I stated we should forge a "Northeast Asian Economic Subregion." At the time it was spoken of unfavorably, being criticized as an impossible dream, and didn't get a very sympathetic reception. Subsequently, Japan also concluded an FTA (Free Trade Agreement) / EPA (Economic Partnership Agreement), with Singapore, and the tide turned. I started to wonder, however, whether Japan was a country which would place its main focus on Asia and be able to pursue regional integration.

By way of example, with the Asian currency crisis of July 1997 as a turning-point, there was a time when Japan was considered to make Asia its core focus and proceed in regional integration under the structure of ASEAN Plus Three (Japan, China and the ROK), which resulted from the initiative taken by ASEAN with the currency problem. Initially, ASEAN had taken the initiative, but China was the next to do so. Exceeding the coming together resulting from the currency problem, China, which took the initiative further to include trade, had great foresight. When China was making efforts to conclude an FTA/EPA with ASEAN with a target of 2010, Japan's reaction was "It's Chinese lip-service, so leave it." However, when China began to pursue an FTA/EPA earnestly with ASEAN, Japan couldn't leave it anymore. Then, Japan also set out to conclude an FTA/EPA with ASEAN with a target of 2012, two years later than China. Japan is a country slow to move. The ROK may go ahead with an FTA/EPA with ASEAN in 2009 or earlier.

The advancing concept of an East Asian community is in the process of negotiation, with ASEAN Plus Three at the core, for an ASEAN Plus Six, as advocated by

Japan (adding Australia, New Zealand and India to Japan, China and the ROK), or ASEAN Plus Ones (proceeded with individually and reciprocally). With ASEAN having become the focus, the three 'pillars' of Japan, China and the ROK concluding their own respective FTAs or EPAs with ASEAN, or alternatively of six 'pillars' doing so, is the extremely complicated ongoing state of affairs. However, Japan, China and the ROK, in terms of their economic scale, amount to more than nine times ASEAN's GNI (Gross National Income). Why is there no action between Japan, China and the ROK? It is a problem which Japan, China and the ROK should be considering together.

The first Asian Summit took place in Malaysia in December 2005, and the ASEAN Plus Six countries participated. This was due to the expansion of members, from Japan changing the course which had been pursued under ASEAN Plus Three. Why did Japan expand the number of members?

The position in which Japan has been placed in Asia is an extremely difficult situation diplomatically. For Japan, the most important thing is US-Japan relations, and with their alliance based on US-Japan defense, it cannot add an East Asian community concept likely to impede such relations with the US. And at the same time, Japan shouldn't hinder the forward movement of the East Asian community concept from Chinese initiatives in Asia. To that end, wanting to curtail China's political and economic impact on Asia by adding Australia, New Zealand as well as the colossus of India to ASEAN Plus Three, is Japan's true intention. This will be a great problem for Japan, with long-lasting implications.

Japan's East Asian Diplomacy

Post World War II, Japan's serious mulling of its Asian diplomacy, was probably after the Asian currency crisis. Going back to 1977, Prime Minister Fukuda went on a tour of Asia, and I think it was his speech in Manila on "Heart-to-heart cooperation" which was the first 'salvo' which set the real direction of Japan's Asian diplomacy. At that time I was at the Japanese Embassy in the Philippines, and Fukuda's speech was also called the Fukuda Doctrine. The word "doctrine" has the meaning of a policy of a great power, and it didn't have a good ring to Asian nations, and the then Secretary of Foreign Affairs of the Philippines, Romulo, made the sarcastic comment of "since when has Japan been a great power?" This is a revealing tale of the difficulty of Japan's Asia diplomacy.

The second 'salvo' was in January 2002, with then Prime Minister Koizumi's "Let Asia and Japan advance together" speech in Singapore, and I think he created a wonderful Japanese Asian strategy. However, that isn't

to say that it was heavy on content - he wasn't thinking of an 'East Asian community' with the "community" in lower-case, but was thinking of it as nothing other than a community-level talking-shop. In December 2003, the Japan-ASEAN Commemorative Summit was held in Japan, and made a declaration to work to create an East Asian community with Japan and ASEAN at its core. If China and the ROK had been called as observers at that time, then at the subsequent negotiations on the East Asian community concept, Japan, China and the ROK would probably have been able to work in unison.

I would like Japanese diplomacy to have more confidence and magnanimity. What bothers me in the negotiations for an East Asian community is that Japan always argues for common values, and that this is in places in conflict with Asian ideas. What is considered odd from Europe is that Japan, an Asian country, has a common set of values with the US, yet not with China. An extremely nebulous political ideology is included within "common values." It refers to what the OECD terms common values; number one is pluralist democracy, number two is market economics and number three is respect for human rights. However I wonder whether it's a good thing to override the culture, religion, economy and political systems of every corner of the world and impose common values in one fell swoop. Asia is rich in its diversity. The OECD, of which Japan used to be its sole Asian member, has changed too. While I was there, Mexico's entry brought the number of members to 25, the ROK's to 26, and now there are 30 members, and its set of values has also changed.

Japan, by forcing the penetration of common values through the addition of Australia, New Zealand and India to ASEAN Plus Three, has been trying to restrain China's impact as much as is possible, but working towards an Asian Economic community in this fashion will most likely not work well. In fact on 15 January 2007, at the second East Asian Summit held on Cebu, it brought divisions not only in relations between Japan, China and the ROK, but within ASEAN, which had until then somehow maintained its unity, and sight of the path to an Asian Economic community was lost. It is considered that the responsibility for that should be shouldered by Japan and China jointly, with Japan's responsibility being the greater.

In the future how will Japan get along in the thick of its relations with the US, China and Asia? It is being confronted with difficult diplomatic choices. In November 2006, President Bush, who was participating in the APEC Summit held in Vietnam, considered the expansion to an ASEAN Plus Six or larger, and displayed dissatisfaction towards Japan's proposal. Russia did so also, when President Putin took part in the first East Asian Summit in Malaysia in December 2005 and gave a speech. A Russian observer attended the second East Asian Summit. India takes part, but Pakistan would probably have a natural interest too. Japan's past talk of "community" likely had as its basis that Japan does not want to create a community, and that in Asia, a super-national community like the EU cannot come to be. However at some point the word community will burst forth, and I think confusion will be the state of affairs.

The Role of an East Asian Economic Community

The future of an East Asian community is extremely unclear. A "beauty contest" between Japan, China and the ROK is taking place. Under such circumstances, it is questionable whether a truly effective economic community is possible, in economic terms. The question of how many members an East Asian community will have, will be all the more the topic of fruitless political debate, though Japan is placing great importance on this. If the members don't decide, no progress can be made and that means that very likely no progress will be made.

So where can we make a solid start? For my part, I think we should stop the political running round in circles, and first of all make a start on the things that can be done towards an economic community. For that reason also, I think the current reality of Japan, China and the ROK having not concluded an FTA or EPA to be extremely strange. The responsibility for this should be borne between the three countries, notwithstanding that Japan's responsibility is the greater. If the US concludes an FTA with the ROK, Japan will probably hurriedly enter into an FTA with the ROK. If the ROK ties up an FTA with China now, Japan will probably hurriedly conclude an FTA with China. This is no good - why isn't Japan looking ahead? They have strategies of getting along well with the US and expanding the number of members, but down the road, when history issues and political problems resurface, progress will once again cease.

Currently, in the space of a week, no less than 731 scheduled return flights leave 17 Japanese airports for 20 Chinese airports. Also Japan-China trade, from approximately \$60 billion in 1998, has increased three-fold. Around 20,000 Japanese enterprises have set up shop in China, and China has received a lot of employment from Japanese companies. Not concluding an FTA or EPA under such conditions is peculiar.

Japan's Role

Within ASEAN there is an ASEAN political role towards the East Asian community concept. There is something wonderful in the wisdom of the leaders of the small nations of ASEAN, set up in 1967 in Bangkok. However, while holding ASEAN's role in esteem, if Japan, China and the ROK do not establish political or economic structures for cooperation, an effective East Asian community won't be set up. With that being the case, let us consider what Japan will produce an initiative from, and the role Japan should play.

It was fantastic that Japan, within its relations with ASEAN, has taken the initiative on energy issues coming from an idea from the Ministry of Economy, Trade and Industry. This was worked out at the Second East Asian Summit in Cebu. The only problem was that the "East Asian FTA concept" was basically an ASEAN Plus Six FTA, and moreover there was also the "East Asian OECD" put out by the Minister-before-last of Economy, Trade and Industry. So what is it then? I, who had been at the OECD, was astounded. Under the ASEAN Secretariat they will create the "East Asian Economic Research Center", and strengthen the ASEAN Secretariat. Japan will contribute 10 billion yen towards this over ten years. This is a

commitment to wonderful projects aimed at ASEAN, such as energy-conservation training, technical cooperation and the training of specialists.

However, what will Japan do for the Northeast Asian Economic Subregion, which is close to Japan? Nothing at all. Japan only has eyes for ASEAN.

In a kind of battle for supremacy, or power struggle, between Japan and China over the community, it is hoped that they rival one another in a good way, but with all the bickering, ASEAN doesn't know which direction is best to take for the creation of an East Asian community. As originally, it would be good if ASEAN were in the driving seat, and Japan, China and the ROK were sitting quietly in the back, but when the backseat passengers bicker, ASEAN ends up veering this way and that. For ASEAN, are Japan and China truly partners which it can rely on, or is the dependable partner the US? Within ASEAN itself there are countries considering these questions. Northeast Asia, in particular Japan and China, should recognize this current state of affairs.

Why won't Japan set eyes on the substantial work achieved from the long-standing efforts of ERINA, amongst others? An East Asian expert, I also act as Chairman of NEASE-Net, and I think that Japan should lay stronger foundations in Northeast Asia. In my home of Iwate Prefecture, and the Tohoku (Northeast) Region taken as one unit, how should we undertake cooperation with Northeast Asia? As an example, Miyagi and Iwate prefectures, in collaboration, have established an office in Dalian. It invites students from Iwate Prefectural University, Dalian Jiaotong University and others. It does the same in the ROK. If things are considered soberly, I think it has gradually become clear what things should be considered before the major concept of an East Asian community. On 16 and 17 September 2006 there was the first NEASE-Net Forum and General Meeting at Iwate Prefectural University. The Tohoku Region, being within Asia, a part of East Asia, and specifically of Northeast Asia - has come up with ideas, with one such example being the pursuit, not by a single prefecture, but of a collaborative project on automobile components. Gradually this way of thinking is becoming established. I would like to see active and confident movement towards a Northeast Asian Economic Subregion.

The Northeast Asia Environmental Cooperation Organization

It is commonly held that China will become the worst nation on earth in terms of environmental problems. The OECD's IEA (International Energy Agency), too, says that in the future Asia is set to become the biggest energy-consuming region. The Ministry of Economy, Trade and Industry has focused on energy and, under Prime Minister Abe, has produced the "Asia Gateway Vision." What

should Japan really do regarding its "Beautiful Country" vision and environmental problems, energy conservation, etc.? I think, rather than political matters of what to do on the membership of East Asia, that more important are the matters of what to do, in substance, about environmental problems and energy in Japan, China, the ROK, Mongolia, Siberia and, to be included at some future date, the DPRK.

The US is presently the greatest emitter of CO₂, and China comes in second. According to IEA forecasts, in 2030, the total CO₂ emissions of the three countries of North America (the US, Mexico and Canada) will be 8.1 billion tons, and on its own China's will be 7.17 billion tons. The EU's will be in the region of 4.1 billion tons, and the one nation of China will outstrip the 25-nation EU. China has become the world's largest emitter of SO₂, overtaking the US. Limits to growth will come from the environment. Consequently, what Japan ought to do would be technical cooperation in energy conservation. After creating a Northeast Asia environmental cooperation organization and curbing CO₂ and SO₂ through technical cooperation aimed towards China, I would like China to shoulder its obligations to curb CO₂ and SO₂. Through this kind of technical cooperation, the feeling of trust between Japan, China and the ROK would become stronger. A good community cannot come about where there are no relationships of mutual trust.

Let's stop the fruitless political debating, and set in on the economic front. We should gradually go ahead from the things that can be done. As an example there is the currency problem. ASEAN sought out regional cooperation after the currency problem. If this expands to trade, and on to energy, the environment etc., then gradually something community-like will probably emerge.

Towards a more Open Asian Community

It would be best for Asia if it had a distinctively Asian community. It would be good not to have a body along the rational lines of the EU. Asian countries cannot enter NAFTA. Likewise the US cannot enter the EU. My message to the US is that I would like them to look on whatever Asians are doing for themselves with typical American big-heartedness.

In the future an open community is hoped for. The EU started from 6 nations, then grew to 10, 15 and 25, and has now become 27. ASEAN started from 5 nations, grew to 6 and is now 10. NAFTA, in turn, started with three countries, and will most likely expand into Latin America. Asia too, having ASEAN Plus Three as its basis, should aim for a community which will gradually develop into an open body. This would be open regionalism within globalization.

[Translated by ERINA]